

国土交通大臣 前原誠司殿
国土交通副大臣 辻元清美殿
運輸審議会会長 大屋則之殿

2010年2月18日
北総線の運賃値下げを実現する会
会長 吉田治男

成田空港線の上限運賃申請 **運輸審議会答申に強く抗議する**

本日、運輸審議会は首記答申を京成電鉄の申請のまま答申した。1月26日、28日の公聴会で様々な問題点が指摘されていたにもかかわらず、一顧だにせず、きわめて短時間で、企業のいいなりの答申に至ったことに、驚きあきれるばかりである。

運輸審議会公聴会では、

- 1) 沿線住民にのみ高負担を求める中ぶくれ運賃体系である
- 2) 北総鉄道には事実上線路使用料を払わない内容である
- 3) 北総線上を京成電鉄がただ乗りする構図を許しているのは両社が実質的に京成と一体の会社である資本・役員関係にあるからであり、正常な契約とはいえない
- 4) 北総線上の各駅は安全対策も取られておらず、都心へのアクセス時間も延びるなどの不利益ばかりが押しつられるものである
- 5) 収入原価表では数年にわたって赤字とされているが、この数字は実際の乗客数を半分にしか見積っていない 収支を上野空-港間ではなく、京成高砂-空港間のみでみており、著しく不公正な数字であり架空の赤字である
- 6) 私たちは、京成本線の現行運賃体系で試算しても、北総・京成ともに十分な利益が出ることを数字で解明して、審議会へも資料提供しました

新政権になって初めての公共料金認可ということもあり、本件は消費者行政という新たな視点からも大きく注目されてきている。

政権交代が実現し、生活者・消費者重視の政治が実現すると私たちは期待していたが、期待はずれも甚だしい。

これほどの事実を示されても、認可を適当とした運輸審議会には断固抗議すると共に、国土交通大臣は、慎重に再検討するよう強く求める。

以上